

# 寝屋川市地域公共交通網形成計画（骨子案）『概要版』

## 【策定の背景】

- わが国では、長年のモータリゼーションの進展や人口減少、少子高齢化などにより、公共交通の利用者減が続き、公共交通ネットワークの縮小やサービス水準の一層の低下が、更に公共交通の利用者を減少させる「**負のスパイラル**」が発生している。
- これまで、民間事業者が中心となってきた公共交通サービスの提供に関する検討について、この枠組みを見直し、地方公共団体が**地域戦略の一環として持続可能な公共交通ネットワークの形成**を進める必要性が高まっている。
- こうした背景を踏まえ、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の改正が平成26年11月20日に施行され、地域公共交通網形成計画の策定ができるようになった。この計画は、地域での公共交通の現状・問題点、課題の整理を踏まえて、公共交通ネットワーク全体を一体的に形づくり、持続させることを目的に、地域全体の公共交通のあり方、市民・交通事業者・行政の役割を定めるものとなっている。
- 寝屋川市でも、これまで民間事業者が中心となって公共交通が形成されてきた。しかし、人口減少、少子高齢化が進行するなかで、公共交通の利用者の減少が続いており、**これまでのサービスが容易に維持される状況とはいえない**。そのような中、平成30年3月には寝屋川市立地適正化計画を策定し、コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりを進める中で、**人の移動を支える公共交通のあり方を考える契機**を迎えていることから、このたび、市民・交通事業者・行政がともに支える公共交通ネットワークの実現を目指す「**寝屋川市地域公共交通網形成計画**」の策定を行うこととした。

## 【策定の目的】

- 自家用車の利用に依存することなく、公共交通等の各交通手段が連携した適切な役割分担のもと、寝屋川市の実情に応じた多様な交通手段について、**関係機関等と連携**を図り、**持続可能な交通社会**と**活力ある都市の実現**を目指す。

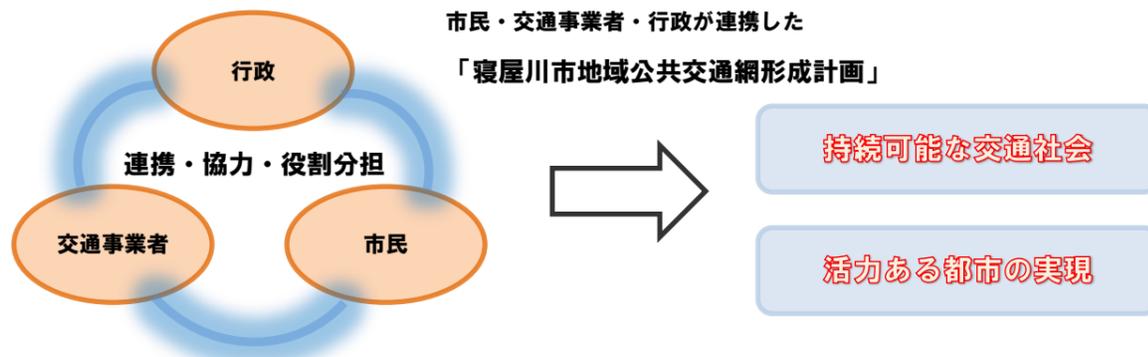


図 計画策定に関する概念図

## 【策定の位置づけ】

- 寝屋川市地域公共交通網形成計画は、**本市にとって望ましい公共交通のすがたを明らかにするマスタープラン**と位置づけ、上位計画や関連計画との整合を図る。

## 【地域の現況】

### (1) 人口の推移

- 寝屋川市の総人口は平成7年をピークに減少
- 高齢化が進行しており、平成7年に比べ、平成27年の老年人口は約2.9倍に上昇
- 今後もより**一層の人口減少と少子高齢化が進行**する見込みとなっている。

### (2) 人の動きの減少

- 平成7年に比べ、平成27年での**流動量が減少**
- 市内を発着する移動の約2割が自動車利用

### (3) 公共交通を取り巻く状況

- 寝屋川市を運行する鉄道、路線バスともに利用者数が減少傾向
- **路線バスでは、段階的な見直し等が進行**

### (4) 公共交通のネットワーク

- 駅勢圏・バス停勢圏内に9割以上の人口が集中
- 主な施設立地のほとんどが駅勢圏やバス停勢圏内

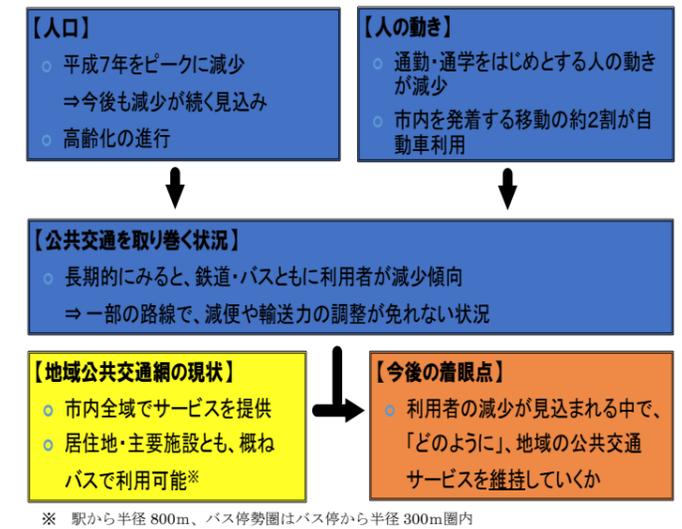


図 地域の現況に関するまとめ

## 【地域のニーズ】

### (1) 寝屋川市民を対象とした公共交通に関するアンケート調査

- 鉄道駅へのアクセスにあたっては「**特に困り事はない**」が約6割
  - 最寄りバス停までは「**距離が近く、利用しやすい**」が7割以上
- 一方で、以下の意見がある。
- **路線バスの運行本数が少なく、利用しづらい**
  - **自宅からバス停まで距離があり、利用しづらい**
  - **自宅からバス停まで高低差があり、利用しづらい**

### (2) バス利用者を対象としたアンケート調査

- バス利用にあたって「**特に困り事はない**」が約5割
  - 最寄りバス停までは「**距離が近く、利用しやすい**」が約8割
  - 鉄道とバスの乗り継ぎでは「**特に困り事はない**」が約6割
- 一方で、以下の意見がある。
- 鉄道とバスの**乗り継ぎに待ち時間**が発生する
  - **路線バスの運行本数が少なく、利用しづらい**
  - **乗り継ぎに新たな料金**が発生する

# 寝屋川市地域公共交通網形成計画（骨子案）『概要版』

## 【交通まちづくりの方向性】

### (1) 第五次寝屋川市総合計画 後期基本計画

- 周辺市との**広域連携**を見据え、**多様な交通手段による日常生活の利便性の向上**を図る。

### (2) 寝屋川市まち・ひと・しごと創生総合戦略

- 子どもから高齢者、障がいのある方等が歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりを進めるとともに、**公共交通の利便性の向上**等を図り、都市機能を強化する。

### (3) 寝屋川市立地適正化計画

- **鉄道駅周辺の4つの都市核**を中心拠点と設定する。
- 交通拠点となりうる3つのエリアを地域・生活拠点と設定する。

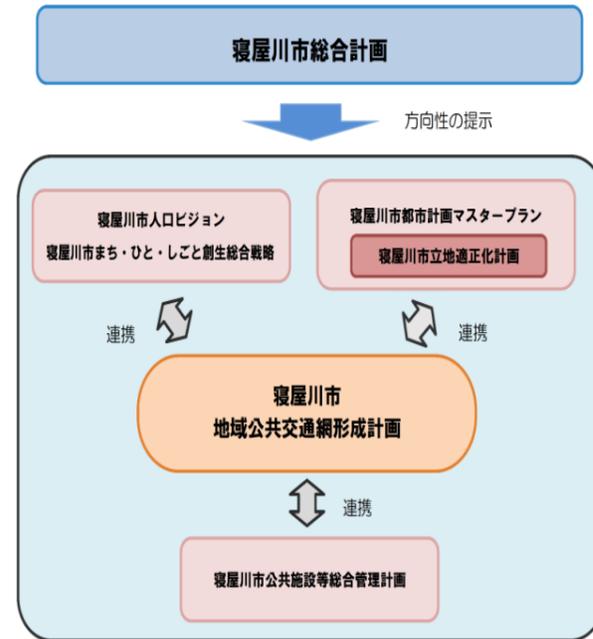


図 地域公共交通網形成計画の位置づけ

## 【地域公共交通網形成計画で検討すべき課題】

### (1) 地域の現況からみた着眼点

- 人口減少や少子高齢化による利用者の減少を見据えた**公共交通サービスの維持**

### (2) 地域ニーズ（アンケート結果）からみた着眼点

- 市民やバス利用者から一定の評価※がされている**現状の公共交通サービスの維持**
- 地域ニーズの高い**市内外の商業施設や鉄道駅（拠点）へのアクセスの充実**
- 地域ごとの**多様なニーズや意見に対応する取組み**の推進

※ 一定の評価：【地域のニーズ】で示したとおり、地域によって多様なニーズや意見が存在するが、主なアンケート結果から「特に困りごとがない」などが半数以上であるため。

### (3) まちづくりからみた着眼点

- 人口減少や少子高齢化が進む中での、長期的な定住を支える暮らしやすく**住み続けたいまちづくりを支える公共交通の充実**
- 関連計画と連携した、地域・生活拠点、鉄道駅を結び**利便性の向上**
- **周辺市との広域連携**を見据えた公共交通網の充実

## 【地域公共交通網形成計画の将来像・基本方針・方向性】

### (1) 将来像

- 上位計画や関連計画で示された住みやすさを重視するまちづくりを達成するため、子どもや学生、働く世代、高齢者などの各世代、また、子育てする人、障がいがある人など、だれもが、安心・気軽に利用できる公共交通ネットワークの実現を将来像として描く必要がある。

**将来像：『だれもが安心、気軽に利用できる公共交通ネットワークの実現』**

### (2) 基本方針

- 人口減少と少子高齢化による、公共交通ネットワークの縮小やサービス水準の一層の低下（負のスパイラル）を防ぐ工夫、取組みが必要である。
- 住民の安全・安心かつ快適な生活を支えるまちづくりの重要な手段として、**既存の公共交通サービスを維持**することを計画の基本方針とする。

### (3) 方向性

- 多様な地域ニーズに応えることや、上位関連計画で示したまちづくりとの整合性を図るために、既存の公共交通ネットワークをベースとして、**どのようなサービスを追加することが望ましいかを基本的な方向性として検討**する。
- その際、地域ニーズに応じた利用促進や改善、まちづくりの視点との整合とあわせ、周辺市との広域連携の実現を目指すこととする。

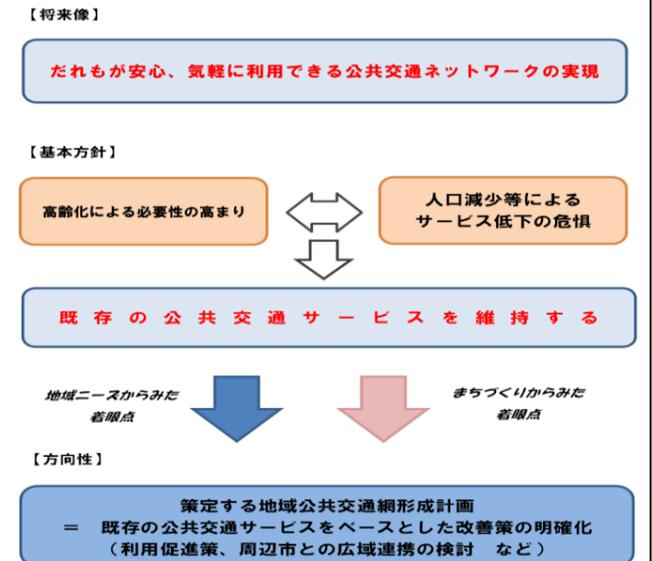


図 地域公共交通網形成計画の基本方針と方向性に関する概念図

### (4) 広域的な連携を見据えた将来ネットワークのイメージ



※ 経路等はあくまでイメージであり、実際のものとは一致しない可能性がある

